

いま、世界は新型コロナウイルスという未曾有^{みぞう}の脅威にさらされています。ウイルスは肉眼では見ることはできません。しかし、その存在を検出する手段は存在していて、そのデータを見ることが、その先の行動を選択するために欠かせないプロセスのひとつであると言えるのかもしれません。

今月号では、「鉄道の見える化技術」として、さまざまな情報を把握すること、それによって列車の運転や設備維持管理を支援することに関する研究成果を紹介しました。「見える化」には、測量やデータ変換などといったさまざまな手順や過程が含まれ

ています。目視可能なものであってもそれを効率よくデータ化して定量的に評価したり、検査データとその位置を効率よく対応づけたり、経済性を考慮したメンテナンス計画を示したりなど、行動判断のもととなる情報認識のかたちは、新しい技術によって大きく変わりつつあるようです。

来月号の特集は、「鉄道の空気力学」です。高速鉄道に関する空気力学はもとより、強風時の安全性や、万一の火災を想定した煙の流れなど、鉄道の空気力学にまつわるさまざまな研究開発について紹介します。どうぞご期待ください。(H. M.)